

令和6年神奈川県議会第3回定例会 安全安心特別委員会

令和6年11月20日

◆亀井たかつぐ委員

皆さん、こんにちは。

田中委員、そして永井委員共々、地元、横須賀市選出をしていただいている公明党の亀井でございます。どうぞ今日は、よろしくお願ひいたします。

私からは、横須賀市における急傾斜地対策、崖地の崩壊対策について、何点か当局に確認をさせていただきたいと思います。

皆さんも、お手元の委員会資料6ページにあります急傾斜地対策についてなんですが、この急傾斜地対策というのは、崖地の崩壊対策、それをしっかりと止めなければいけないという対策なんですが、県としては、水防災戦略という、要は、急傾斜地対策をしっかりと予算をつけてしっかりとやりますよという戦略、それに基づいて、令和4年度から、県単独事業、県の予算だけでやる急傾斜地対策という事業の増額をしまして、さらに令和5年度からは、国の補助事業といって、国の予算も入る公共事業の、その事業の、要は条件緩和ができる、それによって国費が入るような、実は、公共工事、崖対策工事が増えたということもあるんで、皆様方の生活の安全・安心にしっかりと寄与することができるんではないかと思って、今日は、その質問をさせていただきたいと思います。

地元、横須賀というのは、皆さん御承知のとおり、山、坂が多いもんですから、もう本当に急傾斜地というか、崖がいっぱいあるんです。その崖が、地震とか大きな災害のときに崩壊してしまう、そういうことがないように、今日は確認をさせていただきたいなと思いますので、よろしくお願ひいたします。

まずは、横須賀市内の急傾斜地の対策として、令和5年3月に改定をしました水防災戦略、これはちょっと難しいんですけれども、要は、急傾斜地にしっかりと予算をつけて頑張ってやっていきますよというふうな戦略があるんですが、令和5年度のこの実績について、お伺いしたいと思います。

◎砂防課長

まず、水防災戦略についてでございますが、令和5年度から令和7年度の3年間ということで戦略を練っておりまして、この中で、社会福祉施設ですとか、それから学校、病院など、いわゆる要配慮者利用施設と我々呼んでいますが、このような施設、8か所、これを含めて3年間で75か所を戦略的に整備していくこうということを目標にしております。

この中で、横須賀市内についてでございますが、この75か所のうち21か所の整備を、目標を立てておりまして、この21か所につきまして、急傾斜地崩壊防止のためのコンクリートの擁壁等を整備するということにしております。

令和5年度は、このうち7か所の整備が完了しております。

◆亀井たかつぐ委員

今の御答弁の中で、要配慮者利用施設というのは、簡単に言ってしまえば、老人ホームとか、保育園とか、幼稚園とか、そういうところの周りにあるような崖

なんですけれども、その要配慮者利用施設というのは、横須賀市の中でも、その整備については位置づけられているんですか。

◎砂防課長

横須賀市内につきましては、森崎二丁目にございます幼稚園、若草幼稚園という幼稚園、この1か所を位置づけておりまして、これにつきましては、令和5年度に崖の整備が完了しているという状況でございます。

◆亀井たかつぐ委員

分かりました。

ぜひ、横須賀市内、本当に、先ほど申し上げましたように崖が多いんで、急傾斜地対策、本当に、ここにしっかりと予算を入れていただきながら、皆様方のお仕事、私たちもバックアップさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

先ほど私が申し上げましたように、国の公共工事、補助事業という公共工事なんですけれども、その採択基準が緩和されて、国の予算も実は、横須賀市を含め、神奈川県の急傾斜地工事にも導入される方針になるというか、そういう可能性がずっと出てきたということも、うれしい情報もあるんですけれども、その内容をちょっと改めて確認させていただいてよろしいですか。

◎砂防課長

要件緩和の国の事業の内容でございますが、これまで国の補助事業を採択するためには、崖の高さが10メートル以上の対策というものが要件になってございました。これ以外につきましては、これより低い崖につきましては、県のほうで県単独予算を投じて整備をしていかなければいけなかつたと。これにつきまして、国のほうで、市町が策定する、まちづくりの計画、この中で、立地適正化計画というのがございます。この中に、居住を誘導する区域ですとか、防災指針、こういうものを盛り込んだ計画を立てれば、その居住誘導区域、これは危ないところから安全なところへなるべく誘導していくという、その区域を横須賀市さんが立地適正化計画という中で策定なさっていると。この居住誘導区域の中に、従来の10メートルではなくて、それよりも低い崖があった場合でも、その10メートル以上から、5メートル以上の崖地については国の予算を投じて結構ですよという要件緩和ができました。

これによって、令和5年度から、要件緩和によって国の予算が投じられるということになった次第でございます。

◆亀井たかつぐ委員

そうしますと、今後、県は、今おっしゃっていただいた国の要件緩和を活用することによって、どのように事業を加速化していくかというのを教えていただいていいですか。

◎砂防課長

この要件緩和による国費の活用をいたしますと、国費が、これまで 10 メートル以上のものしか投じられなかつたというところの、それより低いところも国費が投じられるので、国費の活用の幅が広がっていくということになりますので、イコール、崖地対策の予算が増額していくことができます。これによつて、整備がどんどん進んでいく、加速化につなげていくことができます。

また、県単独費でこれまで、その要件緩和によって、できなかつたところができるようになるということで、県単独予算をほかに振り替えていく。後年度に対策をしようとしていたところを前倒しできているということで、加速化につなげていきたいと思っております。

◆亀井たかつぐ委員

ちょっと具体的な例を出さないと、今日いらっしゃっている皆さんにも分かりにくいと思うので、ちょっと事例を出したいと思うんです。

もう数年前に、私、ある方から、いや、亀井さん、ちょっとうちの裏の崖、崩れそうなんで、見てくれないかなと言って、行つたんです。そうしたら、高さが 8 メートルの崖でした。高さ 8 メートル、だから、私の正面にあるこの 2 階の非常口のマークよりもまだ高い崖だったと思いますが、その高さ 8 メートルの崖、さらに角度的にも 30 度以上の、要は、条件に合うような崖で、さらにその工事をやることによって守られる家屋というのが、多分 10 戸以上あつたかなと思っているんです。でも、先ほど課長が答弁していただいたように、8 メートルの崖だと、県の単独の予算でやる工事しか適用できないので、お金のない県がやる工事ですから、やっぱり数年かかってしまうんです。どのぐらいかかりますと言つて県の当局の方に聞いたら、いや、亀井さん、この 8 メートル以上の崖で、こういう崖って横須賀市、いっぱいあるんで、適用される崖は、もういろいろ数えてみると、亀井さんが行つた崖というのは、大体、工事が終わるのに 10 年以上かかりますねと言われました。

それを私の依頼者に、いや、実は県の職員の方から 10 年以上かかると言われてしまつたと申し上げると、幾度もこういうふうに言われるんです。10 年も待つたら、私、死んじやうじやないのよと言われちゃうんです。そのぐらいの期間、待たさなきやいけないのに、今回、国の条件緩和があつて、10 メートル以上の崖じゃないと国は、お金を出さなかつたのが、5 メートル以上になると、この 8 メートルの崖に県の単独予算だけでやる県単の工事と国の予算も入る公共工事の二つの工事をもしかしたら使えるかもしれないとなつたときに、さつき言った時間の短縮で、10 年待たさなければいけないところを、もしかしたらもっと短くできるかもしれないと横須賀市民の皆様方は期待しているんです。

大体ざっくりの、ちょっと条件で申し訳ないんだけれども、この今、私が申し上げたような 10 年以上かかると言つてはいた県単事業が、今度、公共工事、国の予算も入る工事も適用できるということになれば、どのぐらいの時間短縮になるんですか。

◎砂防課長

横須賀市内におきましては、令和5年3月に立地適正化計画を策定いただきました。これによりまして、条件緩和の国費が入るようになりました。これまで県単独費でやらなければできなかつたところ、国費が投じられなかつたところ、ここにつきまして、令和5年度、昨年度、13か所、この国費を使いまして、横須賀市内の整備をすることができました。13か所につきましては、規模もそれなりにございますので、そのうち1か所が令和5年度内に完成しております。

ということで、事業は、たくさんございますけれども、この中で全部がどのぐらいで終わるのかというのは、一概に答弁すること、なかなか難しいんですが、少なくとも去年は、13か所は県単費で行わなければいけなかつたところを、国費を投入して、そのうち1か所はもうできているという、こういうことでございますので、加速化がどんどん図れていくと。先生がおっしゃったような10年という月日をかけないでもできるようになってきている、そういうふうに感じております。

◆亀井たかつぐ委員

10年以上かかるというところで、今日は、課長から答弁で5年未満でできますよと言つていただくと、非常に皆さん安心するかなと思ったんですが、なかなか、そこまでの答弁は難しいかもしれません、その可能性は、なくはないかなというふうに思いますので、今後もぜひ、いつまた南海トラフまたは首都圏直下地震が襲つてくるかも分かりませんし、そういうときにまず、被害があるのは、こういう崖地をしょったような家屋だと思いますから、ぜひ、そこにもしっかりと注力していただくことを要望して、私からの質問を終わります。